



協働事業ふりかえり会議

～気づきを活かし、共有する～
2000年4月→2006年12月

三重県生活部NPO室 森下道大

みえパートナーシップ宣言

- 1998年11月24日、「夢の共有とコストの分担」等協働のあり方を示す11のキーワードを整理し、「みえパートナーシップ宣言」として発表しました。
- 1999年1月、市民から協働事業のその後を行政だけに任せるのかという疑問がだされ、2000年3月、学習会を重ね「協働事業」を評価する仕組みが評価表として作成されました。

評価の仕組みを深める

2000年4月、7つの組織の有志で構成された、評価システムを実践的に研究開発する目的で組織された2年間のプロジェクト(「評価システム研究会」)が発足しました。

NPO

- 特定非営利活動法人NPO研修・情報センター
- 特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター
- 特定非営利活動法人コミュニティ・シンクタンク「評価みえ」
- 特定非営利活動法人よこはま里山研究所
- 東京ボランティア市民活動センター

行政

- 三重県生活部NPO室
- 環境省パートナーシップオフィス

評価システム研究会のテーマ

①NPO組織マネジメント評価システム

②NPO事業評価システム

③NPOと行政の協働事業評価システム

協働評価の枠組み

「協働**評価**自己チェックシート」の基本設計

- ①協働のどの段階か
- ②協働の目的、目標設定は適切か
- ③協働の領域設定は適切か
- ④官民の役割分担は適切か
- ⑤協働のめざすべき方向は適切か

(NPOと評価－評価でつくるNPOのパワー－評価システム研究会研究報告書から特定非営利活動法人NPO・研修情報センター世古一穂さんの整理による)

評価システム推進のための課題

課題

1. 協働評価システムの社会化
2. 協働評価システム活用事例の蓄積とバージョンアップ
3. アセッサーの養成

三重県は、3→2→1というステップを
2002年→2005年にかけて実施しています。

実践から構築へ

1. 県内の協働事業の収集と検証(2000年度)

評価システム研究会で検討がスタートしました。

協働事業として実施されている県事業について、NPOと行政が共に共通の視点(下記参照)でチェックを行いました。

視点:協働で実施しようとしたねらい、協働の経緯、協働の方法、効果、課題

2. 課題改善へのステップ(2001年度)

評価システム研究会が1年かけて議論してきた視点を踏まえて、「協働事業自己チェックシート」を開発し、案の段階で協働事業担当者による検討会を行い、翌年2月に2事業を対象に行いました。

チェックシートの目的:双方の相互理解を深め、対等な関係をつくること、県民にとってより効果的な事業を実施すること、事業における官民の役割を明らかにしていくこと。

※変更点 「評価」 → 「気づきを活かし、改善を共有する」

仕組みを創り、つなげる

3. 全庁的な取組へ(2002年)

- 「ふりかえり会議のコーディネーター」の養成(課題3の解決)
- 県庁内の協働事業の把握
- ふりかえり会議の実施(14事業実施)

4. 一般化に向けて取り組む(2003年)

- ・ 県庁内の協働事業の把握
- ・ ふりかえり会議の実施(20事業実施)(課題2事例の蓄積)

5. ふりかえり会議から見えてきたもの(2004年)

- ・ 協働のルール必要性(庁内ワーキング、協働事業での検討によりチェックリストのバージョンアップ(課題2バージョンアップの解決))
- ・ ふりかえり会議の実施(18事業実施)(課題2事例の蓄積)

6. 第三者評価への位置づけへ(2005年)(課題1社会化へ向けての取組)

県が設定した視点とこれまでの取組をふまえて、コーディネーターの意見書を第三者評価として位置づけることが検討されています。